

2025年4月20日（復活日、C年）
牧師メッセージ
「婦人たちはイエスの言葉を思い出した」
(ルカによる福音書24: 1-12)

司祭ヨセフ太田信三

本日は、ヨハネによる福音書とルカによる福音書が選択できるようになっています。東京聖テモテ教会の10時半の聖餐式は山口司祭がヨハネによる福音書で説教してくださいますので、私は皆さんにどちらの福音にも聴くことができる事を願い、ルカによる福音書でこの原稿を記します。

今日のルカによる福音書の箇所では、最初の宣教者の姿が示されています。それは、マグダラのマリア、ヨハナ、ヤコブの母マリア、そして他の婦人たちです。ルターは彼女たちが「十一人と他の人皆に一部始終を知らせた。」という「知らせた」を「宣教した」と翻訳しています。宣教とは、彼女たち自身が経験した復活を証しすることでした。そして、彼女たちが使徒たちに宣教したことに始まり、脈々と語り継がれて、ご復活の福音は私たちのところまで届けられています。二人の天の使いは彼女たちにこう言いました。

「ガリラヤでイエスが言わされたことを思い出しなさい。」

この言葉に従い、イエスの言葉を思い出した婦人たちは、「そうだ、あの言葉は本当だったのだ！イエス様は三日目に復活すると言っていたではないか！」と確信し、その「本当だ！」という確信を伝えたのです。この確信は、彼女たち自身にも復活の経験をもたらしました。絶望のなか、せめて遺体に香油を塗ることしかできなかった彼女たちが、復活を証しする者へとまったく変えられたのです。それはまさに、希望を失い、生きながら死んでいた彼女たち自身が復活の命に与った、ということです。この自分自身に起こった復活を伝えることこそ宣教だったのです。

はじめの宣教者となった彼女たちのように、私たちもみ言葉が真実であることをこの身を持って知りたいと心から願います。イエスの復活。それは絶望の先に必ず希望があることを約束する出来事です。婦人たちがそうであったように、絶望の中で、イエスのみ言葉を思い出すなら、私たちも婦人たちと同じ復活の命をいただくことができます。復活日、私たちは神が愛する御子の命を差し出してまでも伝えたかった神の思い、絶望の先の希望を確信を持って受け取りたいと思います。そしてその確信と共に、世界に宣言するのです。イエスはまことに復活されました。死も、絶望も、どんなに強力な惡の力も神に勝つことはできません。心からお祝いしましょう。イースターおめでとうございます。